

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は、ほとんどの児童が読んだり書いたりすることができているので、字形を整えて書けるようにしていく必要がある。形を捉え、正しく丁寧に書くことができるよう指導していく。 一人やグループ、全員で、楽しんで音読に取り組んでいる。逐次読みの段階から、単語や文節を捉えて読む力を伸ばしていく必要がある。 本への興味が高く、読書に親しんでいる。様々な本に親しむことができるようにしていく。 助詞、促音、拗音、長音、句読点の使い方がまだ十分に身に付いていない。繰り返し指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの部屋の指導を続け、書写の学習で文字全体の形（四角、縦長、横長など）の指導を行う。書字に課題がある児童は、個別指導や別課題等に対応し、身に付けさせる。 一人、ペア、グループ、全体など読み方を変えたり、動作化・劇化などを工夫したりして、音読の楽しさを感じさせる。文節ごとにスラッシュ（/）を入れたり、単語ごとに色分けしたり、リーディングトラック一等の補助具を使用する等、単語や文節を捉える工夫を行う。 すきま読書を続けるとともに、学校司書と連携しながら本の紹介、読み聞かせを積極的に取り入れる。クイズ形式で本を紹介する活動等、読書の楽しさを実感できるような活動を取り入れ、次なる読書活動につなげていく。 感じたことや気付いたことなどを書いたりする活動を多く取り入れる。自分で推敲できるようなチェックシートを使い、正しく書いたり直したりする力を伸ばす。 言葉の使い方の練習用プリント等で、継続的に練習をする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数、たし算、ひき算はおおむねできているが、計算の補助的に指を使っている児童も見られるため、計算力を伸ばしていく必要がある。 数感覚を養うことで数の合成、分解を身に付けさせ、繰り上がり繰り下りの計算につなげていく。 問題場面と図（ブロック）、式を関連付けて理解する力を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードを使って反復練習を行う。指ではなく、図で考える方法に移行させる。 日常で数を意識して考える活動や、授業中のミニゲーム等の活動で、数の合成分解を身に付けさせていく。 文章や絵を手掛かりにして、ブロックを操作したり図を描いたりすることで、問題場면을捉えさせる。言葉と図やブロック、式を結び付けながら、ペアや全体で説明する活動を行う。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 学校探検で2年生と関わり、もっと学校について知りたいという思いをもつことができたので、幼稚園や保育園のこどもたちと関わる機会を設定し、自分よりも小さい子に親しみをもたせたい。 一人一鉢で継続的にアサガオの世話と観察をし、アサガオの成長に喜びを感じるとともに大切に育てることができているので、より自然に親しみをもてるようにしていきたい。 生き物に触れ合う喜びや生命の尊さを実感させていく。 身近な自然の様子や、四季の変化に気付かせていく。 水遊びで遊ぶものを作ったり遊び方を考えたりしたが、工夫することに個人差がある。遊びに使う物を工夫して作ったり遊び方を工夫したりする力を身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育園のこどもたちに教育活動の様子を見学していただいたり交流したりして、児童が自分よりも小さい子に親しみをもてるようにする。 学校で飼育しているウサギやカメに触れ合ったり、校庭・中庭にいる昆虫などを採集して飼ったりする。児童の思いを大切にし、飼育の仕方を調べ、世話をしたり、観察したりする。飼育を通して、生き物の変化や成長の様子に関心をもつとともに、生命の尊さを実感できるようにする。 校庭や中庭の探検を繰り返し行い、気付いたことを共有し、まとめることで、身近な自然の様子や四季の変化に気付くことができるようにする。 様々な自然と触れ合ったり、自分で遊ぶものを作り繰り返し遊ぶことで、工夫する力を育てる。また、一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行うための学習環境を整える。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱が好きな児童が多いので、範唱を聴いてさらに曲想を感じ取ることができるようにしていく。 表現活動に意欲的な児童が多いので、自由に表現する楽しさや、のびのびと活動する楽しさを味わわせていく。 鍵盤ハーモニカの正しい指使いやタンギングなどの音楽的技能を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 友達と一緒に活動したり、伸び伸びとした表現ができている友達に注目することで、表現活動への抵抗感をなくしていく。 鍵盤ハーモニカの演奏では、ドレミで歌う、空で指使いを確認する、歌いながら鍵盤上で指を動かす、など段階を踏みながら練習をしていくことで、技能面を高めていく。苦手になりそうな児童も楽しめるような簡単なものを毎時導入する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 作画や造形などの制作活動に意欲的に取り組む児童が多いが、自分の思い通りに表現したり、自由に発想を広げたりすることに戸惑う児童もいるので、表現する楽しさを味わわせていく。 はさみ、のり、クレヨン、色鉛筆、絵の具など、用途に応じた道具の扱いに今後も慣れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作前に思いを聞き、作品のイメージを膨らませてから表現できるようにする。また、柔軟な発想をしている児童の作品を取り上げて、紹介したり称賛したりするなどして価値付けしていく。 鑑賞の場を設けて、互いの作品のよいところに気付いたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲を育てていく。 スムーズに表現活動に入れるように見本を提示したり実演をしたりする。ICT機器を活用して手元の動きを

		視覚的に捉えられるようにする。他教科の学習活動にも道具を取り入れ、扱う機会を増やしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に意欲的に取り組む児童が多いが、学習内容によって、技能面で個人差があるため、個に応じた学習をすすめる。 遊び方を工夫する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既知の運動に意欲的なので、様々な運動経験を積ませる。 個に応じた運動ができる場を設定し、スモールステップで技能面を高められるようにしていく。 準備運動やウォームアップでボールを扱う動き、跳ぶ動きを多く取り入れ、遊びを通して動きの感覚をつかめるようにする。学習者用端末で運動の様子を撮影し、自分の体の動かし方を客観的に確認できるようにする。 運動の場の工夫をし、児童が互いに運動を見合うことができるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考えることができるようになってきているので、友達との関わり合いや伝え合いの機会を増やし、多面的・多角的な考える力を伸ばしていく。 自分の経験を振り返る際、自分の考えたことを、文字に表すことができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。 学習者用端末を活用して、挿絵や写真を拡大したり、役割演技などを取り入れたりする。 写真や動画で児童の身近なものを提示することで、教材とのつながりや自分の経験の振り返りをする手立てにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動において、句読点やかぎ、助詞や促音の使い方やカタカナなどの習熟の差が大きい。文章を書く際の基本として、意識をしなくても正しく書くことができるようにしていく必要がある。 物語を好んで読む児童が多いが、文字を読むことに抵抗感がある児童もいるため、様々な本に親しむことができるようにしていく。 新出漢字の書き取りの定着に個人差が見られる。漢字を正確に書き、日常的に漢字を使う力を身に付けさせる必要がある。 語彙を増やし、初発の文章などの意味が捉えられるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動の際、繰り返し指導をする。また、意識する点（句読点やかぎ、助詞や促音の使い方、間違いやすいカタカナなど）を朝学習の時間などを効果的に活用し、めあてを絞って提示することで、段階的に定着を図っていく。 朝読書、読書週間、図書などの時間を活用し、より一層本に親しむ機会を設けていく。図書館司書と連携をして、読み聞かせや本の紹介を行い、物語の本を手に入る機会を増やす。 朝学習の時間にプリント等を活用して既習漢字に繰り返し触れる。漢字テストの間違い直しを確実にを行い、必要に応じて再テストを実施することで、習熟を図る。 家庭学習チェック時にも正しく漢字を書けているか、家庭と連携し、確認していく。 読み聞かせ等で、多くの語に触れる機会を増やす。また、単元学習と関連付けて、教科書の巻末「ことばのたからばこ」を活用し、使える言葉を増やしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、たし算やひき算の計算の技能が身に付いているが、個人差が見られる。繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算、かけ算九九を十分に習熟させていく。 1めもりの大きさに注目して数直線を読む力や10をもとにして数の大きさをとらえる力をつけていく。 文章題の場面を読み取って式に表すことができる力をつけていく。 センチメートルやリットルなど、単位を用いた計算では、具体的なかさや長さがイメージできる量感を身に付ける必要がある。 図形についての感覚を豊かにしながら、図形を構成する要素に着目して捉える力を伸ばしていく。 時計の午前、午後、正午の理解や、○時の○分後の時間を求める力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容を復習しながら、繰り返し練習することで、計算の技能を身に付けられるようにする。かけ算については、日常的に唱え、様々な人に聞いてもらうなど意欲的に取り組めるようにする。 日常生活において5とびで数を数えたり10ごとに数を数えたりする活動を取り入れ、数をまとまりとしてとらえる感覚を身に付けていく。 文章問題では、図を用いて<u>立式の根拠を考える</u>ことで、演算決定する力を伸ばす。 ものさしや計量カップなど、<u>具体物を用いて学習を進める</u>。算数の時間だけでなく、日常生活においても「長さ」「水のかさ」等を意識できるように、用語を用いて話す。 紙を折る、切る、等の、実際の操作を通して図形の特徴を実感できるようにする。 既習内容を、プリント等を用いて復習し、繰り返し練習をする。また、日常生活の中でも時間を意識できるよう、用語を用いていく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 学校探検では、「1年生に学校のことを知ってもらおう」、「喜んでもらおう」と、各教室についての説明やクイズ、インタビューの内容を紙芝居や動画などで工夫して紹介し、年上の立場としての自覚が高まっているので、関わりをもてる機会を増やしていく必要がある。 虫や野菜の観察を通して、生き物への親しみをもち、大切に世話を続けることができ、視点をもって観察し、観察カードを書くことができたので、書いたものが分かりやすいものになるような工夫をする力を伸ばしていく。 町探検では、1学期に行った町探検で見付けた学校の周りにあるお店や施設に注目しながら地域を巡ることで新しい発見もあり、身近な地域に興味をもつことができたので、さらに地域に親しみや愛着をもてるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1年生に楽しんでもらいたい。」「優しくしてあげたい。」という思いを実現できるよう、おもちゃ作りでは1年生でも分かるよう、ルールの特化や遊び方の工夫に取り組み、秋探しの単元では、「秋探しビンゴ」を活用し、関わりをもてるように活動を工夫していく。 生き物との関わりを通して、自分のよさにも気付けるようフィードバックをする。観察する際には、<u>国語の観察文の書き方と関連付け、観察の視点、書き出しや文末表現の例を提示する</u>。さらに、児童同士で読み合い、付箋やカードなどを活用して気付いたことを残し、分かりやすい書き方をお互いに取り入れられるようにする。 市立図書館などから教材に関する資料を集めておき、児童が気軽にすすんで調べることができるようにする。学習者用端末を活用して、資料が共有できるようにし、いつでも調べられるようにしていく。 2学期の町探検では、地域で生活したり働いたりしている人々と関わる機会を作り、仕事の内容や工夫について興味関心を深め、更に地域に親しみや愛着をもつことができるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて、曲想を感じ取ることができているので、身体でリズムをとったり、表現したりしながら楽しく曲を聴くことができるようにする必要がある。 意欲的に取り組もうとする児童が多いため、鍵盤ハーモニカの正しい指使いやタンギングなどの音楽的技能をさらに伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏をよく聴いて体で拍を感じ、心の中で歌うように指導する。 いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 楽曲の拍を感じ、手拍子するとともに、鍵盤を使って、指使いの確認やタンギングができるように、<u>技能面を高めていく</u>。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 創作活動に関心が高く、意欲的に取り組んでいるが、教科書の作品例や、見本、友達の作品の真似をしながら制作する児童もいるので、自分なりの発想で自由に表現する楽しさを味わうことができるようにしてい 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味・関心を惹きつけてから活動のめあてを提示する。「形や色を見つけ、そこから考える」ことを意識できるようにする。 活動の始まりにいろいろなアイデアを発表しあい学級全体で共有をすることで、発想を広げることが難し

	く。	<u>い児童も活動に取り掛かりやすくする。また、のびのびと発想を広げている児童について机間指導の際に取り上げることで、他の児童にも発想の手がかりを与える。対話型の鑑賞の場を設け、互いの作品のよいところを伝え合う活動を行う。</u>
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に運動に取り組み、楽しみながら授業を受けることができる児童が多い。 ・経験の違いによる運動技能に差がある。個に応じた学習をすすめる。 ・友達の様子を観察して自分に合った運動の仕方を見つける児童も含め、楽しみながら自分に合った運動を行うことができている。 ・友達の良い動きを着目して真似ることで、よりよい動きにつなげることができるようになってきている。 ・自身で運動のめあてを決めたり、どこまで近づけたか振り返ったりすることができるようにしていく必要がある。 ・体力テストの結果より、ほとんどの種目で全国平均を下回る結果となった。特に男女ともに柔軟性と俊敏性、瞬発力が全校平均値よりも低いため、高められる運動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動領域の特性に多く触れることにより、体を動かす心地よさを体験できるようにする。そのために、技能差に応じた多様な運動の場を設定する。 ・スモールステップで、運動の高まりを実感できる指導計画を作成し、成就感・達成感をより多く経験できるようにする。そのために、一つ一つのステップの目標の姿を意識させる指導を多く取り入れる。 ・児童のよりよい動きを学習場面に応じて取り上げ、共有化を図り運動の目標とする姿を意識させる学習展開を図る。 ・<u>学習者用端末を活用し、目標とするイメージを事前に意識できるようにする。</u> ・<u>学習者用端末や学習カードを活用し、スモールステップの学習過程や自らに応じた学習の姿を意識できるようにし、より具体的な運動のめあてを児童が持てるよう工夫する。また、振り返りの時間を確保していくことで、児童が学びを振り返り、次時も目標をもって取り組めるようにしていく。</u> ・必要に応じて実技テストを行うと共に、準備・整理体操でそれらの項目につながる動きを取り入れるなど、運動の機会を増やしていけるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して、場面絵や写真を拡大したり、動作化や役割演技などを取り入れたりすることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。友達との話し合いの機会を増やし、多面的・多角的な考える力を伸ばしていく。 ・自分の経験を振り返る際には、自分の考えを表現する力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分の考えをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。</u> ・<u>動画で資料提示することで、活発な議論を喚起し自分の経験の振り返りをする手だてにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。</u>

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて） 改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 図書室での読書活動や読書週間では、多くの児童が読書に親しんでいる。活字を苦手とし、読書活動に気持ちが向かわない児童もいるので、読む力を伸ばしていく必要がある。 手本を参考にして、自分の意見や感想を分かりやすく書くことができる児童が多い。思いはあっても、ノートやワークシートに書くことが苦手な児童もいるので、個に応じた指導をしていく必要がある。 新出漢字の書き取りの定着に個人差が見られる。漢字を正確に書き、日常的に漢字を使う力を身に付けさせる必要がある。 文章を書く時に句読点を適切に使用したり、文のまとまりを意識したりしながら、書く力をつけていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の頃から続けている読書マラソンに対して、引き続き取り組む。また読書量を視覚化して、一人一人の児童が達成感をもてるようにする。学校司書との連携を継続して行う。 思いや意見を書きやすくするためにワークシートなどの工夫をする、<u>文章の手本などを用意し、児童が理解しやすいようにする。</u>また、個別指導を行い、それぞれにあった文章の書き方の方法を考える。 漢字ドリルでの取り組みが終わった後に、習熟を考慮しながら小テストを行う。範囲を事前に児童に周知した上で、自主学習の時間を設ける。個に応じた課題を出し、一人一人が達成感を味わえるように工夫する。<u>書き方の指導では、なぞり書きをしたり、書き方のポイントを分かりやすく示したりする。</u> 文のまとまりを意識するためにワークシートなどに工夫を加え、文章のまとまりを意識する場を設ける。<u>文章は短くまとめることが、自分も読み手も読みやすいことを伝えていく。</u>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料等から情報を読み取る力に課題が見られる。 地図や資料等から読み取ったことや、授業で学習したことを、表現したり、別の場所で活用・応用したりする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>方位の表し方や地図記号について、授業で定期的に扱い、定着を目指す。</u>また、教科書や副読本を併用しながら、<u>複数の資料から情報を読み取る学習活動を取り入れていく。</u> <u>社会科の内容を教科横断的に学習に関連付け、学んだことを表現したり、活用・応用したりする活動を取り入れる。学習した内容を白地図や新聞、スライド資料など、様々な手段でまとめることで、学んだことを表現する手段を増やしていく。</u> 授業の導入で地図記号クイズや地図帳を使つての地名探しを行い、地図に慣れ親しむ活動を取り入れる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして問題を解決する力を養う必要がある。 文章問題を解決する場合において、文章を的確に読み取れないため、何を求めるのか、どのように解決していけばよいのかを考え、説明できるようにしていく必要がある。 九九を定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認し、既習事項の理解度を把握する。 <u>問題解決型の学習を繰り返す行うことで、既習事項を活用した問題の解決の仕方を指導していく。</u> 文章問題を解決する際には使用する数値や求めることを把握するためにキーワードに線を引いたり、図に表す方法を示したりすることで、<u>自力で解決できるよう手掛かりを示して指導をしていく。</u> <u>習熟別指導において、レディネステスト等を通した児童の理解度に合わせて個別の指導を行う。また、必要があれば九九表を渡すなどして対応する。</u>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を楽しんで行う児童が多い。さらに、興味や関心を高めるために実体験を大切にしたい事象提示を行う必要がある。 動物や植物の体など、正しい用語を使って表す力を身に付けていく必要がある。 理科の学習方法として課題に対する予想を立てたり、結果の見通しをもったりする場を設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の知的好奇心を高められるような<u>体験的な活動を増やす。</u>また、<u>小グループや個別での活動を増やして課題を追及できるようにする。</u> <u>授業のまとめでは、普段使っている言葉と、正しい理科の用語について比較する。繰り返す行うことにより身に付けていく。</u> <u>図や画像と、用語とを対応させて確かめることで、実体験と理科の知識を結びつけるようにする。</u> <u>理科の学習の流れをしっかり身に付けるとともに、予想を立てる際には生活経験やこれまでの学習で得たことを生かすようにする。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞からの情景の想像、リズム打ち、リコーダーの指使いの学習等に意欲的に取り組んでいる。楽譜が読める児童や初めて音符を読む児童など様々なので、個に応じた学習を行う必要がある。 楽器の音色の特徴に関心を持ち、楽しむ態度が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指の押さえ方の練習を個別に行うなど、実技指導の充実を図る。個に対しての指導を工夫する。<u>達成度を確認するために、定期的にリコーダーのテストを行う。</u> 指使いのやり方を習得するために、視覚教材などを活用し、児童が取り組みやすい環境を整える。 旋律の動きや拍の流れ、楽曲の特徴を体感できるようにする。また、鑑賞の活動を更に充実させて、表現に対する興味を広げていく。

図工	<ul style="list-style-type: none"> どの单元でも、意欲的に取り組み、作品を通して自分を表現しようとしている。 制作、造形遊びともに、楽しみながら活動に取り組むことができている。 最後までやりきることが難しい児童もいるので、個に応じた支援をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味・関心をもつことができるような教材提示や説明をする。また、<u>作業の時間配分を細かく区切って授業展開にメリハリをつける。</u> 落ち着いた雰囲気の中で、安全に気を付け、集中できるように配慮する。授業に集中できない児童には、個別に声掛けをし、具体的な目標を提示する。 作品を通して個々の児童のよさをお互いに共有し、自信をもって活動に取り組めるよう配慮する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な領域にも、めあてをもって取り組める児童が多い。 友達と協力して、用具の準備をしたり、励ましの声を掛け合ったりしながら学習に取り組むことができている。 鉄棒・マット運動・跳び箱運動に苦手意識をもつ児童が多い。そのため、手で体全体を支える力を身に付けさせたい。 体力テストの結果より、握力、立ち幅跳び、50m走が男女ともに全国平均より低いため、足腰の力や握力を伸ばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>ペアやグループで取り組める学習計画を立て、友達との関わりを増やせるようにしていく。</u> <u>安全に配慮することや、友達に励ましの声を掛けたり、応援したりする態度を、毎回の授業の中で価値付けていく。</u> <u>用具や場の工夫をしたり、学習カードを活用したりしながら、児童が自主的に動けるような場を設定していく。</u> <u>学習カードを活用し、自分のめあてに沿った振り返りを行い、技能面の向上を目指す。</u>振り返りの際には、よりよい動きをするためにはどうすればよいか、ポイントや友達や先生からのアドバイスを意識できるようにする。 <u>体育のならしの運動で、柔軟体操やジョギング、鉄棒、縄跳び、体幹を鍛える運動等を体づくりとして取り入れる。</u>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材の中で起きる出来事に対して、登場人物の行動や気持ちを自分事として捉え、生活と関係づけて考える力を伸ばしていく。 ねらいとする道徳的価値との関わりについて振り返ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>授業の導入で、価値項目に対しての実生活の例をあげ、児童の考え共有する。</u>学習が進む中で友達の意見や教師の具体的な話からより生活経験に当てはめていけるようにする。 学習している道徳的価値をめあてとして板書して残しておき、授業の中で確認する。振り返りをする際に思い出すのではなく、授業の中で定期的なめあてに立ち返る声かけを行い、学習をすすめる。 日々の生活で、道徳的価値を意識している児童がいた場合には称賛し、周りによさを広げる。また、学習した道徳的価値を実践するような機会を意図的に設定して、個人や集団の良さを価値付ける。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツを通して、外国語（英語）特有のアクセントやリズムを自然に身につける。 簡単な語句の聞き取りを通して、意味を理解する力や、予想する力を高めていく。 体験的な活動を通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。 外国の文化に興味をもち、日本と比べながら学習し、自国の良さを再発見できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語らしい音のかたまりや、イントネーションに着目できるように、<u>英語を聞く時間を増やす。</u> <u>学習に合わせたゲームやアクティビティなどの活動を多く取り入れて、発話できる機会を増やす。</u> <u>具体物や画像などの視覚的にわかる資料を用いて、音声で十分に慣れ親しみながら表現の意味を予想できるようにする。</u> 外国の文化を知るとともに、日本語と英語の音声の違いや、語順の違いなどが分かるようにしていく。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の書き取りの定着に個人差が見られる。漢字を正確に書き、日常的に漢字を使う力を身に付けさせる必要がある。 ・文章を読み取り、叙述を根拠に自分の考えをもち、書いて表現する力を身に付けさせる必要がある。 ・自分の思いや考えを目的や相手に応じてまとまりのある文章で表現する力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の定着を図るため、<u>授業や宿題を通して、繰り返し練習する機会を設ける</u>。また、ノート記述や作文などの学習場面では、<u>既習漢字を進んで使うよう継続的に指導し</u>、正確な書き取りと日常的な活用ができるようにしていく。 ・<u>叙述に着目して読む活動や本文を根拠に考えを伝え合う活動を取り入れる</u>。また、「どこからそう考えたのか」を意識して読むよう指導し、叙述を基に自分の考えをもち、友達との交流を通して考えを深めながら書いたり伝えたりすることができるようにしていく。 ・<u>文章構成の型を活用しながら、自分の考えを整理する活動や友達と考えを交流する活動を取り入れる</u>。また、<u>自分の経験や思いを具体的に書くよう繰り返し指導し</u>、目的や相手を意識して、自分の考えが伝わるまとまりのある文章を書くことができるようにしていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・写真等からの情報だけでなく、文字からの情報収集ができるようにしていく必要がある。 ・得た情報を既習事項や生活体験と関連付けて考えたり、予想したりすることができるようにしていく。そして、そのことを表現する力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に、児童が学習内容に興味をもち、知りたい・調べたい(問い体質)と思えるように、資料提示や発問を工夫する。またグループ活動を意図的に取り入れ、全員が思考できる素地をもてるようにする。 ・<u>児童が資料を読み取ったことを確認する時間や機会を多く設定する</u>。また学習者用端末を活用し、児童がより詳しく調べたい資料を手元ですぐに確認できるようにするとともに、<u>得た情報を効率的に共有し、児童の記述を生かして、考えたことの表現方法や視点(空間的、歴史的など)を学べるようにしていく</u>。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算はできる児童が多い。文章から得られる情報を整理して解決方法を考える力を伸ばしていく必要がある。 ・自分の考えを図や言葉、式を活用して表現したり、伝えたりすることができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認し、既習事項の理解度を把握する。 ・<u>習熟度別の理解度に合わせて、見通しをもって学習課題に取り組めるような授業をすすめる</u>。 ・教科書の適用問題に文章題があるので、時間を十分に設定し、情報を整理して解決する力を育てる。 ・<u>友達の考えや伝え方などの良さに触れながら、よりよい考え方、考えのまとめ方、伝え方の指導をしていく</u>。 ・<u>自分の考えを表出する時間を十分に設定し、どのような考え方をしたのか全体で交流していく</u>。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力を身に付けていく必要がある。 ・予想や仮説をもとに、実験を計画する力を身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>デジタル教科書を用いて、前学年までの学習を想起したり、その単元に関連する身近な事象・現象を提示して、生活経験と関連付けて予想や仮説を考えられるように指導する</u>。 ・<u>めあて、問題→予想→実験計画→実験→結果→考察→結論という流れを意識できるようにさせ、型を示しながら、徐々に自分の言葉でまとめられるようにする</u>。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。表現することにも前向きで、発表等も楽しんで行うことができる。 ・歌唱の活動が好きで、思いや意図を生かした表現をすることができる児童が多い。 ・美しい音色でリコーダーを演奏することができる児童が多く、前向きに取り組む姿が見られる。苦手意識のある児童もいるので個に応じた学習をすすめていく。 ・グループで協力して音楽づくりの活動を楽しむことができる。 ・鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違いに気付きながら楽しんで聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに意欲が高まるよう、テンポよく授業を進める学習展開を工夫していく。発表する時間を十分確保し、さらに表現する楽しさを味わえるようにする。 ・表現の幅を広げられるよう、歌詞の内容を十分理解させ、表現に必要な技能を指導していく。 ・<u>互いに聴き合う時間を多く設定し、自信がもてるようにする</u>。児童が練習する時間を十分確保し、<u>自信をもって演奏できるようにする</u>。個別に指導する時間を設ける。 ・鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるよう、ワークシートや板書を工夫し、音楽のよさに児童が自ら気付けるような授業展開にする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく造形活動に取り組み、自分の思いやイメージを表現しようとする児童が多い。 ・材料や用具の特徴を生かし、試行錯誤しながら制作する姿が見られる。 ・発想を広げたり、友達の作品のよさを伝え合ったりする力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で作品や資料を提示し、<u>発想を広げる時間を設ける</u>。 ・<u>材料や用具を試す活動を取り入れ、表現方法の幅を広げる</u>。 ・<u>制作途中に友達と作品を見合い、よさや工夫を伝え合う</u>。 ・鑑賞活動を充実させ、<u>表現のよさを言葉で伝える場を設定する</u>。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多く、かけっこやボール運動への関心が高い。水泳や校庭での体育の授業が計画通り実施できなかったことから、十分な運動量を確保できるような工夫をしていく必要がある。 ・集団での運動では、よい動きや作戦を考えたり、自分や友達の動きを振り返って改善点を見付けたりすることに課題が見られる。 ・体力テストの結果より、「50m走」「ボール投げ」が平均を大きく下回っているため、「走・投」の技能面の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間や場所でも運動量を確保できるよう、短時間で体を動かせる運動を計画したり、多目的室を活用して場の工夫をしたり体を動かす機会を確保する。<u>準備運動は日陰で行ったり、適宜水分補給を入れたりするなど熱中症予防を徹底する。</u>体育館体育では適宜、冷房を活用する。 ・<u>動きを比較できる動画や学習者用端末、作戦ボードなどを活用し、よりよい動きや作戦を考える場を設定し、技能や課題に粘り強く取り組む態度の向上を図る。</u> ・「なぜうまくいったのか」「次はどうすればよいか」を考える発問を工夫し、振り返りを充実させる。 ・「走・投」の基本的な動きを身に付けられるよう、<u>準備運動や補助運動を継続的に取り入れる。</u>また、休み時間に外遊びを推奨し、体を動かす機会を作る。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通して児童がもつ問題意識を高め、自分の考えをもつことはできるが、その理由を深く考えたり説明したりすることに課題が見られる。 ・友達の考えと比較しながら、多面的・多角的に考える力を伸ばしていく必要がある。 ・学んだ道徳的価値を、自分の生活と関連付けて考えを深められるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が道徳的価値についてより身近に感じられるように、<u>生活の中で経験したことを想起できるようにする。</u>また<u>事前アンケートを実施する</u>などの工夫をする。 ・ペアやグループでの話し合い活動を充実させ、互いの考えを比較・共有する機会を設ける。また、<u>出た意見を整理して視覚的に考えの整理ができるように、板書の工夫をする。</u> ・<u>これまでの自分の経験を振り返る時間をしっかりと確保する。</u>そのうえで、<u>今後の生活に生かせることを考え、教材によって可能な場合は実践する機会を確保する。</u>道徳的価値を意識して生活している児童がいた際には価値づけ、周りに広げていく。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や写真などを用いて、まとまりのある文を理解したり、予想したりできるようにする。 ・歌やチャンツを通して、日本語と英語の音の違いや、音声の特徴に親しめるようにする。 ・音声で十分に親しんだ上で、身の回りの物や自分のことについてコミュニケーションをとれるようにする。 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り理解を深める。 ・アルファベットの小文字の形や音に興味をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>進んで学習に取り組めるように声を掛けたり、できていることを褒めたりして、自分の考えや気持ちなどを表現できるようにする。</u> ・新出単語や表現は、たくさんの練習を重ねたうえでアクティビティをするようにする。 ・「聞く」「話す」を中心として、身近で簡単な事柄に関する事柄について質問したり答えたりできるようにする。 ・外国の文化に対する理解を深められるように、<u>外国の様子がわかる動画や資料を用いて紹介する。</u> ・アルファベットの小文字の形に着目できるような質問をしたり、チャンツを使って音に慣れるようにする。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を理解したり、自分の考えを表現したりする際の語彙力に個人差が見られる。漢字や語句の定着を図り、学習した言葉を適切に活用する力を付けていく必要がある。 登場人物の相互関係や心情を、叙述をもとに読む力に個人差が見られる。 文章全体の構成や筆者の意図を捉え、必要な情報を関連付けて読み取る力を付けさせていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを活用しながら、漢字や語句の<u>反復学習を計画的に行う</u>とともに、学習した語句を文章や日常の表現の中で活用する機会を設定する。 <u>心情の変化を表す叙述に着目する活動や、登場人物の関係を整理する思考ツールを活用する。叙述を根拠として考えを伝え合う交流活動を充実させ、読みを深めていく。</u> 「はじめ・なか・おわり」の構成を捉えさせる。<u>事実と意見を整理したり、要旨をまとめたりする活動を取り入れる。</u>
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図帳を活用した学習に興味・関心をもって取り組んでいる。緯度や経度を活用したり、方位や大陸・海洋の名前を使ったりして、国土の位置や構成を表現できるようにしていく。 地形図や雨温図の読み取りや、それぞれの資料の比較を通して、社会的事象を正確に捉えることができるようにしていく。 写真やグラフなどの資料と、農業・水産業・工業に携わっている人の思いを関連付けて考察ができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>様々な単元の学習で意図的に地図帳や地球儀を活用し、それぞれの活用の仕方や用語の定着を図るとともに空間認識力の向上に努めていく。</u> <u>資料の読み取り方を授業の中で繰り返し確認する。資料の読み取り方を例示してから、同じような資料の読み取りに取り組み、自分の考えをもてるようにする。また友達と交流して考えを深めてから、自分の考察や振り返りをノートに記入できるように指導していく。</u> 資料の内容や掲示の仕方を工夫する。また必要な情報を選択判断できるように、<u>一つ一つの資料を丁寧に扱い、資料から分かることを全体で共有し、じっくり考える場面を設けていく。</u>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体として前向きに学習に励んでいる。既習事項の定着には個人差が大きい。個に応じた、基本的な知識・技能を身に付けていく必要がある。 学習課題に対して、自分の考えをもち、それを説明したり、文章にしたり、図や表にしたりするなど表現すること力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認し、既習事項の理解度を把握する。 <u>単元最初に丁寧に既習事項を振り返り、関連を意識することにより、問題解決型の学習を行う。</u> 基礎的基本的な知識・技能の復習を定期的に行い定着を図る。その際、ワークテストで平均点の低かった単元や誤答の多かった問題などを取り入れる。 <u>ペア交流やグループ交流の活動を多く取り入れ、自分の考えを表現することへの抵抗感を減らしていく。また、自分の考えを分かりやすく表現できているノートなどを例示し、モデルを示す。</u> <u>児童が算数的な用語を使って説明するように指導する。単元や習熟度別クラスによっては話型を提示し、表現方法の定着化を図る。</u>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察などに意欲的に取り組む児童が多い。 自然の事物・現象との出会いを大切にし、主体的に問題解決しようとする力を伸ばしていく。 予想や仮説を基に解決方法を考え、実験計画を立てる力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への意欲を高められるよう、<u>実物や体験を通して学ぶ機会を計画的に授業に取り入れていく。</u> <u>学習のまとめでは、教科書の資料も活用しながら、学習内容が日々の生活に生かされている実例などにも触れていく。</u>そうすることで、理科の学習をより身近なものとして感じさせ、科学的なものの見方を養っていく。 <u>「予想・仮説」を立てた後に、「実験計画」を立てる時間を十分に確保する。まずは個人で考えさせることで、個々の児童の思考力を把握する。その後、グループ→全体で考えを交流する流れを基本としていくことで、条件制御の考え方について少しずつ全員が理解できるようにしていく。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。表現することにも前向きで、発表等も楽しんで行うことができる。 歌唱の活動が好きで、曲想にあった表現をすることができる児童が多い。 器楽合奏が好きで、色々な楽器への興味関心が高く、器楽演奏を得意とする児童も多い。苦手意識のある児童も、前向きに取り組んでいる。美しい音色でリコーダーを演奏することができる児童が多く、他の児童と音を重ねることも楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲が高まるよう、<u>テンポよく授業を進められるよう学習展開を工夫していく。発表する時間を十分に確保し、さらに表現する楽しさを味わえるようにする。</u> 表現の幅を広げられるよう、歌詞の内容を十分理解させ、表現に必要な技能を指導していく。 <u>引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信がもてるようにする。難しい曲にも挑戦し、達成感を味わえるようにする。</u> <u>様々な楽器に触れる時間を十分に確保し、楽器の特徴をつかむとともに、友だちと音を合わせる楽しさを味わえるよう授業展開を工夫する。</u>

	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、楽器の音色の違いに気付きながら楽しんで聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことに関わりに気付けるよう、ワークシートや板書を工夫し、音楽のよさに児童が自ら気付けるような授業展開にする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 題材に合わせて材料や表現方法を工夫しながら制作に取り組む児童が多い。 技能面には個人差が見られるため、用具の扱いや表現方法の基礎を定着させていく必要がある。 制作途中で振り返りを行い、よりよい表現へと改善する力を育ていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作前に表現方法や技能を実演し、見通しをもたせる。 制作途中に中間鑑賞を行い、作品を見直す機会を設ける。 学習者用端末を活用し、制作過程や振り返りを記録する。 用具の扱い方を繰り返し指導し、基礎技能の定着を図る。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科の学習に対し、意欲的に取り組む児童が多い。 学習を家庭でいかしてみたいという意欲的な姿勢も多くみられる。家庭での実践が継続的にできるようにしていく。 基本的な手縫いの学習に意欲的に取り組む児童が多い。苦手意識もち、前向きに取り組むことのできない児童もいるので、個に応じた学習が必要である。 調理等の実技を伴う学習にはどの児童も関心を持っている。衛生に対する意識を高め、作業の流れや意味を理解できる力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを振り返り、友達の意見や実践例の提示なども参考にしながら、家庭での継続的な実践につながるように指導していく。 師範動画の活用・プリント・板書など、自分の理解しやすい方法を活用しながら、手縫いの基礎的基本的な技能の習得を目指す。また、作る楽しさや生活に役立つことへの喜びをもちながら技能を高めていけるよう、単調な練習でなく、作品作りの中に技能習得のための練習を組み込んでいけるように教材を工夫する。 実習を伴う学習においては、安心して皆が安全に活動するために、衛生面や安全面でのルールを守ること、作業の流れが重要であることを意識させる。また児童が活動中のルールを意識できるよう、明確に提示するよう工夫する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しんでいると感じ、意欲的に取り組む児童が多い。 ルールを理解し、安全に運動しようとする児童が多い。 チームで作戦について話し合い、工夫することができる。 日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、技能差の個人差が大きいため、個に応じた学習が必要である。 体力テストの結果より、男子、女子共に全国平均を下回る種目が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や場を工夫し、自分の課題に合わせて運動に親しむことができるようにする。 学習カードやホワイトボードなどを活用して、自分や自分たちの課題を設定し、粘り強く課題解決に取り組めるようにする。 安全面への配慮の視点や、仲間への声掛けの仕方について教師が価値付けることで、児童が積極的に取り組めるようにする。 授業の導入では主運動につながる運動を取り入れ、基礎的な体力向上や基礎技能の定着を図る。 体育の時間以外にも外遊びの奨励を行い、日頃から運動に親しむ素地を養う。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、自分の考えをもつことのできる児童が多い。 授業中の発言は積極的な児童と、そうでない児童の差が大きいため、自分の考えを表現することができるようにしていく。 教材を通して物事を多面的・多角的に考える力を付けられるようにする。 学んだ道徳的価値を、日々の生活に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート等を取り入れ、教材の内容と自分の生活の結びつけられるよう工夫し、発言を促す。 ペアやグループでの意見交換の場を積極的に設け、自分と違う考えや意見を認められるようにする。 授業中の板書は、児童の様々な意見を分類し、共通点や相違点を整理しながら児童の思考が深まるように工夫していく。 授業の振り返りでは、その時間に学んだ道徳的価値をどのように生活の中で生かすのか具体的に考えられるようにする。また学んだことを日々の生活に活かそうとする姿が見られた時は声をかけて価値付け、周りに広げていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを表現できる力を育てる。 意欲的に取り組む児童が多いため、発話できる機会を多く作り会話へのモチベーションを高められるようにする。 身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えられるようにする。 日本文化や日本語と英語の違いを示し、日本語との違いやそれぞれの言語の良さに気付かせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音や文字の繋がりに慣れていくために、歌や絵本、チャンツなどを活用し英語を聞く機会を増やす。 コミュニケーションをとる楽しさや難しさを実感できるように、学習した表現をALTや友達と使う場を設ける。 学習意欲が高められるように学習表現を使って発話したいと思うような場面を設定する。 言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付けるように、図書の本やALTの出身国、視聴覚教材などを活用する。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の考えを聞いて、自分の考えと比べたり、質問したりできる力を伸ばしていく必要がある。また、自分の考えをまとめて、伝える力を伸ばしていく。 ・ 物語文や説明文に対して、児童が自分の考えをもつことは多くの児童ができています。考えを文章だけでなく、思考ツール等様々な表現方法でまとめる力を伸ばす必要がある。 ・ 文章の書き方に関しては、相手に伝わりやすい文章を書くことができるよう支援を継続していく。 ・ 新出漢字の書き取りの定着に個人差が見られる。漢字を正確に書き、日常的に漢字を使う力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の意見をもつための時間を毎時間保障する。その後ペアやグループでの交流を設定し、自分の意見に自信をもてるようにする。自分の考えをまとめられるように、学習者用端末を活用する。</u> ・ <u>自分の考えの根拠が明確になるように意識的に文章の叙述に立ち返るようにする。読み取った登場人物の気持ちや筆者の伝えたいことをベン図や人物相関図などの図を用いてまとめるような指導を進める。ロイロノートに付属されている思考ツールを、引き続き活用する。</u> ・ <u>卒業文集作成に向けて、作文用紙を用いて、卒業文集のベースを作り、そこからよりよい文章にしていく。推敲の学習を行う。「書く」ことに対して苦手意識がある児童に対しては、学習者用端末の原稿用紙の機能を使用し、自分の考えを前向きに書けるように支援する。</u> ・ <u>授業や宿題を通して、繰り返し練習する機会を設ける。習った漢字は日頃から使う習慣を身に付けられるように学習中や宿題の確認の際に声掛けをする。ノートやワークシートで習った漢字を使えるよう継続的に指導を行う。</u>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたいテーマごとにグループを作成して、意欲的に資料から情報を読み取り、話し合うことができていますので、今後は資料から読み取ったことを表現する力を伸ばしていく必要がある。 ・ 調べて分かったことをノートに整理したり、「問い」に対して学んだことを自分の考えとして「まとめ」に書いたりする力を伸ばしていく。 ・ 歴史学習を進めていく上で、児童の定着度に差がある。「暗記」するのではなく、人物や出来事から時代の流れを捉えられるような力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>提示する資料（写真や動画など）を精選し、読み取りの観点・視点を明確にしてから資料を読み取るよう、声掛けをする。</u> ・ <u>友達とペアやグループを作り、交流する活動を取り入れ、様々な意見を学ぶ場を設ける。</u> ・ <u>どの単元でも、単元の最初に学習問題や学習計画を立て、何をどのように学んでいくのか、学習の見通しをもてるようにする。単元のまとめでは、学習問題に戻り、単元を振り返りまとめる活動を行う。学習者用端末を活用しながら、様々な考え方、表現の仕方に触れるとともに、まとめ方を習得できるようにする。</u> ・ <u>必要に応じて有効な動画教材を活用し、視覚的に理解する時間を設ける。</u> ・ <u>どの単元でも歴史上の人物に焦点を当てて、歴史の流れをつかめるよう指導する。</u>
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心が高く、難しい問題に積極的に取り組もうとする児童が多い。さらに主体的に学ぼうとする意欲を引き出していきたい。 ・ 自分の考えを伝えることに喜びを感じる児童が多いが、苦手な児童もいるので、表現する力を伸ばしていく必要がある。 ・ 基本的な整数の四則計算を身に付けていく必要がある。 ・ 問題の解き方を説明したり、他の解き方を考えたりすることに対して意欲的に取り組む力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認し、既習事項の理解度を把握する。</u> ・ <u>学習を繰り返す中で、問題を解決できた喜びを感じたり、自分に自信をもてるような言葉掛けをしたりして、学習に前向きに取り組むよさを感じられる指導をする。</u> ・ <u>児童同士での共有の場を多く設け、お互いの良さを認め合いながら、よりよく伝え合えるように声掛けをしていく。</u> ・ <u>習熟度別のクラスに応じて、既習事項の振り返りや補充課題を取り入れながら授業を進める。</u> ・ <u>問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方が定着するとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。</u>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験に対して意欲的に取り組む児童が多い。 ・ 知識・技能面での学習の定着を図る必要がある。 ・ 見通しをもち、問題解決学習を行う力を付けていく必要がある。 ・ 実験器具の取り扱いや薬品を安全に扱えるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>各単元の学習でまとめの時間を設け、理科の事象を説明する専門用語・知識の確実な定着を図るとともに、学習者用端末を活用して自分の学びをまとめさせる。</u> ・ <u>理科の学習のプロセスである事象提示→問題づくり→予想→実験計画→実験→結果→考察→結論の流れをしっかりと児童につかませ、目的意識をもった問題解決学習ができるように促していく。</u> ・ <u>安全に実験に臨めるように、実験の際の決まり事やルールを徹底するとともに事故が起きたときの対処法についても指導していく。</u>

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。苦手意識のある児童もいるので、個に応じた学習をすすめていく。 ・歌唱の活動が好きで、思い切り表現できる児童が多い。 ・器楽合奏が好きで、色々な楽器への興味関心が高い。リコーダー奏も粘り強く練習する姿が多く見られる。苦手意識のある児童もいるので、個に応じた技能や表現力を高めていく。 ・鑑賞の活動に意欲的に取り組み、楽器の音色の違い等に気付きながら楽しんで聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲が高まるよう、難しい曲にも取り組むなど、学習内容を工夫していく。<u>個に応じた指導をしたり、家庭で練習するよう声掛けしたりし、基本の定着を図れるようにする。</u> ・歌唱では、歌詞の内容を理解するとともに、思いや意図を表現するために必要な技能を身に付けられるよう学習展開を工夫していく。 ・教材や言葉掛けを工夫して、鑑賞で学んだことを自分たちの表現に生かしていけるようにする。また表現の違いによる面白さに気付けるようにしていく。 ・演奏を工夫する時間や聴きあう時間を十分確保し、自分や友達の表現のよさを認め合いながら、さらにより演奏を目指す姿勢を育てていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・表現への意欲は高い一方で、技能面には個人差が見られるので、個に応じた学習をすすめる。 ・題材によっては、表現方法や制作手順に戸惑う児童が見られるので、見通しをもつ力を伸ばしていく。 ・一人一人の実態に応じた個別支援を行い、技能の定着や表現の幅を広げられるよう指導を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作前に手順やポイントを実演・動画で示し、見通しをもたせる。 ・技能面に応じて個別に助言や実技指導を行う。 ・題材に応じて表現方法の選択肢を示し、自分に合った方法を選べるようにする。 ・制作途中や完成後の鑑賞活動を通して、作品の工夫や意図を伝え合う場を設ける。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・一食分の食事について、献立の立て方や献立が栄養だけでなく様々な面からのバランスを意識して考えるものだとすることを理解できている。 ・学習したことを実生活に生かして、自らの生活を見つめなおし、自分なりの課題を見つけることができるようにしていく。 ・実技を伴う学習には意欲的である。取り組みにおける安全指導上のルールを守り、安全に道具を使用し、安心して活動が進められるようにする。 ・学習に対し、実生活と照らし合わせながら自らの意見を持てる児童が多い。自分の意見を持ち、かつ多様な意見や生活を受け入れる力を身につけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンを用いての製作等では、学習ボランティアを活用するなどし、安全指導が徹底できるようにする。また、活動の中で道具の使い方や活動のルールの重要性を感じさせるよう学習環境を整え、ルールの提示方法を工夫し、声掛けをする。 ・実感を伴った理解を深められるよう、学習を生活の中で活用するような課題を実施する。 ・学習内容を自分事としてとらえられるよう、題材を児童の身近なところから扱うようにする。また動画や画像、実物見本等、プリントなど、題材の提示方法も多様にして児童が理解しやすいようにする工夫をしていく。 ・児童同士が心地よく意見交換できる活動をめざし、意見の発表しやすい場や、聞き方に関するマナーについて注意しながら声掛けをしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも積極的に運動に取り組んでいる児童が多い。 ・規則やルールについて、考えを出し合い、折り合いをつける力を身に付けていく。 ・チームで作戦について話し合い、工夫することができる。 ・非日常的な動き（マット運動、柔軟性、投運動、水泳運動など）に関しては、技能の個人差が大きい。技能の習得にのみ注視せず、課題解決能力を身に付けられるようにしたい。 ・体力テストの結果、男子は立ち幅跳びとソフトボール投げで全校平均を下回っている。また、女子は反復横跳び以外のすべての科目で全国平均を下回り、体力全体の底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具や場を工夫し、スモールステップで運動に親しむことができるようにする。 ・授業開始前に教室で規則やルールの確認を行うとともに、状況によって児童の意見で変更する。その際、安全と、運動量の確保に留意する。 ・作戦を立てる際の安全面への配慮の視点や、仲間への声掛けの仕方について具体例を用いて、児童が積極的に取り組めるようにする。 ・学習カードやホワイトボード、学習者用端末などを活用して、自分や自分たちの課題を設定し、動画を撮影して見合うなど客観的に自分の体の動きがみられるようにし、課題解決に取り組めるようにする。 ・授業の導入時に主運動につながる運動として、持久力や柔軟性などを高めるための運動を取り入れ、継続的に取り組む。また、ボールを投げる運動を行う際には、体の使い方の指導を丁寧に行うとともに、休み時間等でもボールを使った遊びを中心に、様々な運動に親しむように促す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の読み取り、自分事に置き換えて考えられる力を高めていく。 ・学習した道徳的価値を日常の生活に生かすことができるようにしていく。 ・発言することが難しい児童がいるため、ハンドサインや頷きなどの意思表示等で自分の考えを表現できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入時にアンケート機能等を活用して、意識調査の結果を共有したり、教材の場面を生活に身近な場面に置き換えたりしてより自分事に置き換えて考えられるようにする。 ・学習を通して共有した道徳的価値を生かすために振り返りの時間を十分にとる。また、具体的に自分の生活のどのような場面で生かしたいのかを書くように指導する。 ・板書された友達の考えを見て、共感する場合に挙手をする等、意思表示の場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。

<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が簡単な語彙や基本的な表現を使ったゲームや歌、チャンツに取り組むことができている。それらの活動を通して、コミュニケーションをとろうとする意欲を高めていく。 ・目標表現を使う目的、場面、状況を提示し、内容の大まかな理解をする力を付けていく。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにしていく。 ・「書く」ことに慣れてきているが、４本線への書き方がまだ定着していない。基本的な表現を書き写す時間を設けて定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツや歌を活用し、既習表現を繰り返し使える場面を多く設定する。また、既習表現を使ってALTや友達とコミュニケーションをとる時間を設け、表現の定着を図るようにする。 ・児童が「話したい」と思うような言語活動を考え、自分から聞いたり話したりできるようにする。 ・ALTの出身国のことや図書の本、視聴覚教材などを活用し、日本語と外国語の言語や文化（行事・生活・習慣など）の違いに興味をもてるように資料を提示していく。 ・「書く」活動では、聞く活動で慣れ親しんだ語彙や表現を用いて練習するようにする。なぞり書き練習をした上で、身近なものを紹介できるワークシートを作成する。
------------	---	--